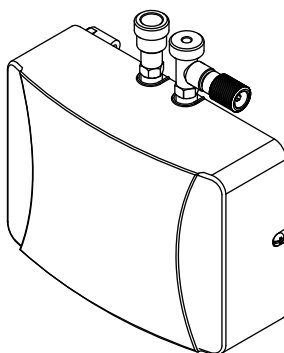




工事要領・取扱説明書

製品名：超小型電気瞬間湯沸器

型 式：DE-5N1



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置・ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡してください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。
（この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、
弊社は一切責任を負いません。）

株式会社 **日本イトミック**

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル
TEL:03 (3621) 2121 (大代表) FAX:03 (3621) 2130
フロント課（修理依頼承り先）
TEL:03 (3621) 2161 (代表) FAX:03 (3621) 2163

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
DE-5N1について	6
各部名称	6
仕 様	7
工事要領	8
施工前にご確認ください	9
1. 部品の確認	9
2. 設置場所の確認	10
施工する	12
1. 設置工事	12
2. 配管工事	15
3. 電気工事	17
4. 試運転	18
5. 流量の調節	20
6. 施工後の確認	22
取扱説明	24
使用方法	25
1. 使用前の準備と確認	26
2. 出湯する	26
長期間使用しないときは	28
お手入れの方法	29
保守点検項目と実施の目安	29
外装の清掃	30
こんなときは	31
LEDの点灯・点滅パターンについて	33
管理技術者の方のみ リセットの方法	34
アフターサービス	35
消耗品の定期交換について	35
補修用性能部品について	35
修理をご依頼の際には	35

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。



警告 この表示の欄は、『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。



注意 この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。



△の記号は、注意(警告を含む)をうながす事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
(左図の場合は『高温注意』を意味します。)



⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は『分解禁止』を意味します。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は『電源プラグをコンセントから抜くこと』という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

警告



必ずアース (D 種接地) 工事を確認してください。
アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。



電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。
故障、火災の原因となります。

必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。
故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。

湯沸器本体は必ず給湯、給水接続口を上向きとし、壁面垂直に設置してください。
破裂、落下、故障の原因となります。

 警告	
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 破裂してやけどや故障の原因となります。
	湯沸器内の水が凍結の可能性がある場合は、電源を入れないでください。 破裂してやけどや故障の原因となります。
	本製品は 1000 Ω・cm 以上の抵抗率を有する水道水でご使用ください。 感電のおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけどやケガの原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	給湯配管は鳥居配管しないでください。 破裂、故障の原因となります。
	湯沸器本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	濡れた手で製品に触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めは瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

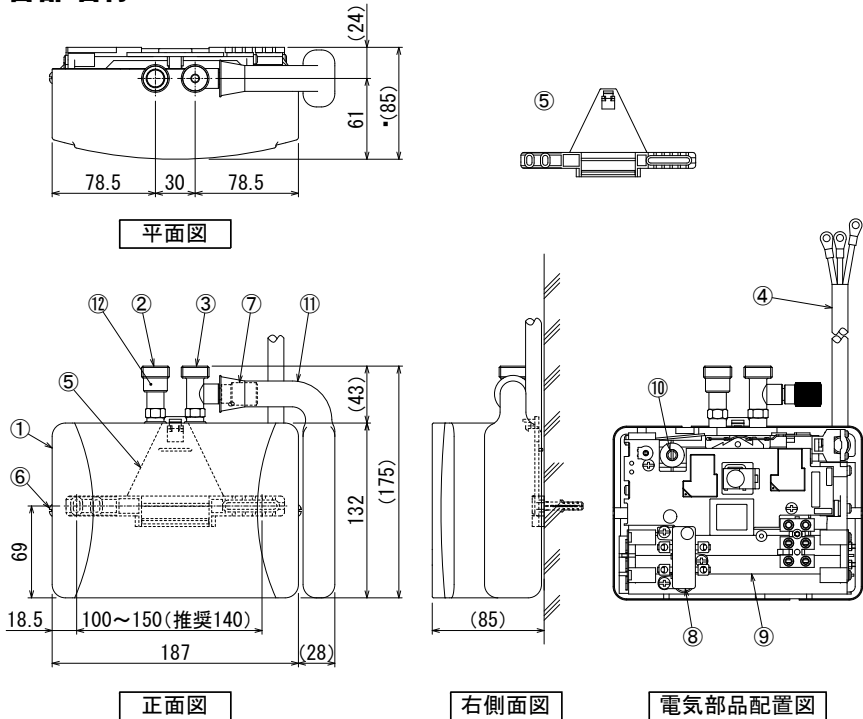
 注意	
	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
	長期間のご使用によって配管内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色、にごり、異臭があった場合は飲用にしないでください。 健康を害するおそれがあります。
	湯沸器本体の満水質量に十分耐えられる強度を持った壁面に垂直に設置してください。 落下の原因となります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製のものを使用してください。 漏水の原因となります。
	給水接続配管に使用するパッキンはノンアスベストパッキンを使用してください。 漏水の原因となります。
	飲用する場合は、必ず一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	床面に防水、排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因となります。
	給湯配管距離は最長で6m以内としてください。（推奨 2m） 破損や故障の原因となります。
	湯沸器内を満水にしてからご使用ください。 故障の原因となります。
	給水温度は必ず 2 ～ 30℃の範囲でご使用ください。 故障の原因となります。

DE-5N1について

イトミックのDE-5N1は約 38℃のお湯を出湯する超小型の壁掛型電気瞬間湯沸器です。通水量と水温を検知し、昇温に必要なヒーターへの電力供給を制御して約 38℃を出湯するように水を加熱します。

(ただし、電圧降下などによる電圧変動、ヒーターの発熱量の差、使用流量、給水温度などにより38℃を下回る場合があります)

各部名称



①外装カバー	②給水接続口 (G1/2 オネジ)	③給湯接続口 (G1/2 オネジ)
④電源コード (0.6m、M5丸型圧着端子付き)	⑤本体取付具	⑥外装取付ねじ
⑦安全弁 (1MPa)	⑧過昇温防止スイッチ (リセットスイッチ)	⑨ヒーター
⑩流量調節ねじ	⑪ドレインホルダー	⑫逆止弁 (内蔵)

※⑤、⑪は付属品

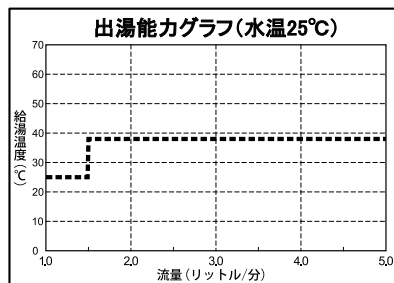
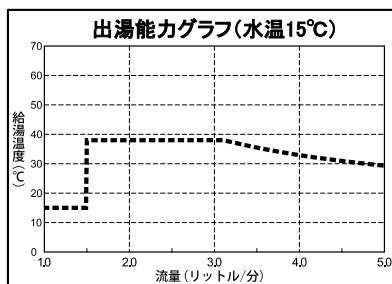
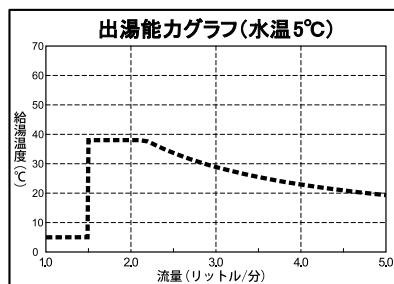
仕 様

標 準 電 源	単相 200V
ヒ ー タ ー 容 量	5.0kW
定 格 電 流	25A
発 生 熱 量	18MJ/h
号 数 換 算	2.9号(※1)
使用流量範囲	約 1.5 ～ 5.0 リットル/分(※2)
温 度 上 昇 値	約 14 ～ 23℃ (水温 15℃)
給 水 方 式	先止め式
給 水 圧 力	0.1 ～ 0.4MPa
安 全 装 置	過昇温防止スイッチ(※3)、異常時主回路遮断装置、 温度センサー異常検出、給水温度異常検出
満 水 質 量	1.5kg
一次側使用水温	2 ～ 30℃
使用雰囲気温度	0 ～ 40℃ (凍結しないこと)
本 体 寸 法	幅 187 × 高さ 132 × 奥行 80mm
設 置 場 所	屋内

(※1)・・・号数とは、水温から25℃上昇させた時の毎分の出湯量を表します。

(※2)・・・使用流量範囲の最低流量以下では動作しません。(工場出荷時 0.3MPa、2.5L/min)

(※3)・・・約 85℃で作動し、ヒーターへの通電をストップします。



工事要領

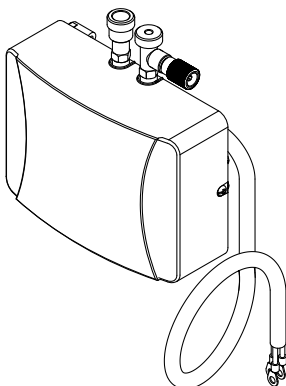
正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

施工前にご確認ください

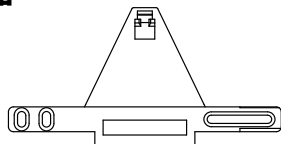
1. 部品の確認

【製品に同梱されています】

DE-5N1 本体



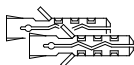
付属品



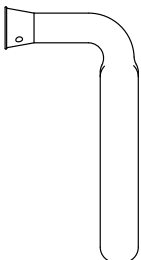
本体取付具



木ネジ×2



ナイロンプラグ×2



ドレインホルダー



工事要領・取扱説明書×1
当冊子です。工事終了後は湯沸器
をご使用になる方へお渡しください。

※当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。

【お客様にて必ずご手配ください】

お客様手配品 (→ P.16 「標準配管図」参照)

- ① 水栓
混合水栓、単水栓

- ② ステンレスフレキ管
給水および給湯配管接続に必要です。施工後のメンテナンスや修理の際に、湯沸器を取り外すために必要です。
- ③ パッキン、シールテープ
配管接続部分から漏水させないために必要です。
- ④ ストレーナー
湯沸器内へのゴミの流入を防止します。
- ⑤ 止水栓
流量の調節やメンテナンス等の際に給水を止めるため必要です。
- ⑥ 漏電ブレーカ
万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA、0.1秒)

上記手配品を必ずご用意ください。

関連商品

- ⑦ 一軸型減圧弁 いちじく (iJG-K)
給水圧力が0.4MPaを越える場合は、必ず取り付けてください。

2. 設置場所の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
凍結対策	冬季に凍結しない場所ですか？ 冬季に凍結する場所の場合、保温工が必要になります。	☐
メンテナンス スペース (離隔距離)	メンテナンスのために本体を取り外せるスペースは確保されていますか？ メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスの際に製品を取り外すことができません。	☐
配管距離	給湯配管距離が最長 6m 以内で収まる場所ですか？ (推奨 2m 以内) 給湯場所が機器より離れすぎている場合は動作が鈍くなり、お湯の待ち時間が長くなります。配管は必ず最長で6m迄としてください。	☐
取付場所	垂直な壁面ですか？ 垂直でない場合はお取り付けいただけません。	☐
	製品上部に配管スペースが取られていますか？ 配管取付方向は上方向のみです。製品上部に配管スペースを取れない場合はお取り付けいただけません。	☐
	本体質量の約 1.5kgに耐えられる壁面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	☐
漏電ブレーカ 端子台 BOXの有無	電源コード(0.6m)が届く範囲に漏電ブレーカもしくは端子台 BOXがありますか？ 無い場合は取り付けや増設が必要です。	☐
給水圧力	給水圧力は0.1MPa ～ 0.4MPaの間になっていますか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品の一軸型減圧弁いちじく (iJG-K)を必ず取り付けてください。	☐

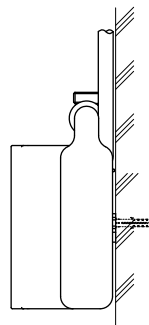
DE-5N1 型の離隔距離

この湯沸器は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しています。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。
(※但し、メンテナンス用スペースとしては機器に対して左右に50mm程度必要)

消防法 基準適合 組込形

場所	離隔距離 (cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0

設置例
(右側面)



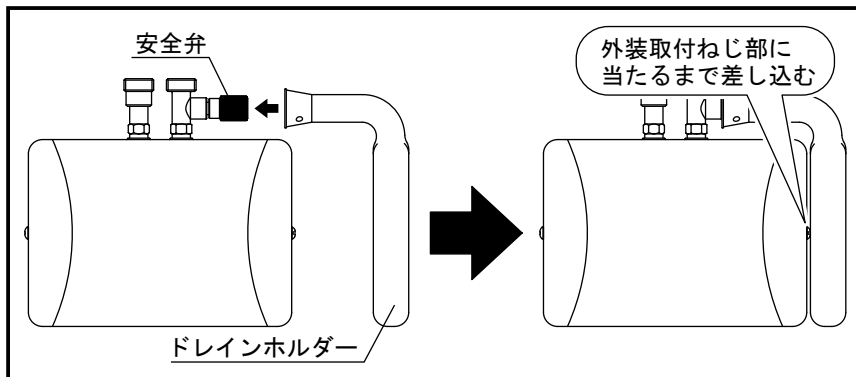
施工する

1. 設置工事

⚠ 警告	
❗	湯沸器本体は必ず給湯、給水接続口を上向きとし、壁面垂直に設置してください。 破裂、落下、故障の原因となります。
⊘	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
⊘	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
⊘	湿気の多い場所や浴室には設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

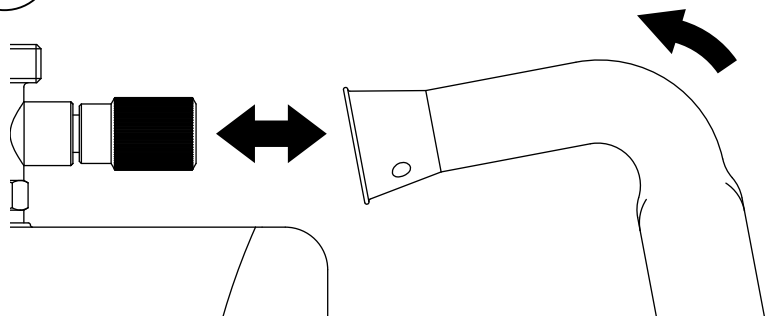
⚠ 注意	
❗	湯沸器本体の満水質量に十分耐えられる強度を持った壁面に垂直に設置してください。 落下の原因となります。
❗	床面に防水、排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

①付属品のドレインホルダーを安全弁に取り付けます。

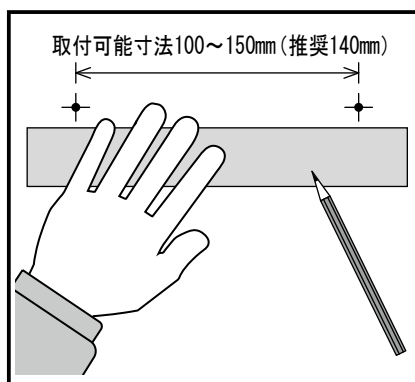




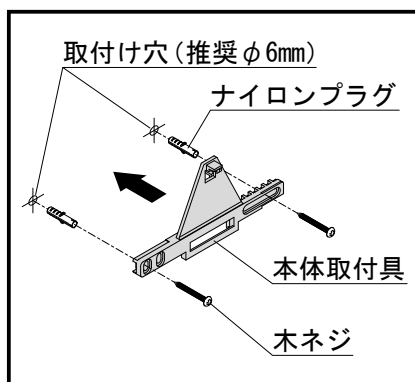
ドレインホルダーの取付け、取り外しを行う際、傾けながら行うと作業がしやすくなります。



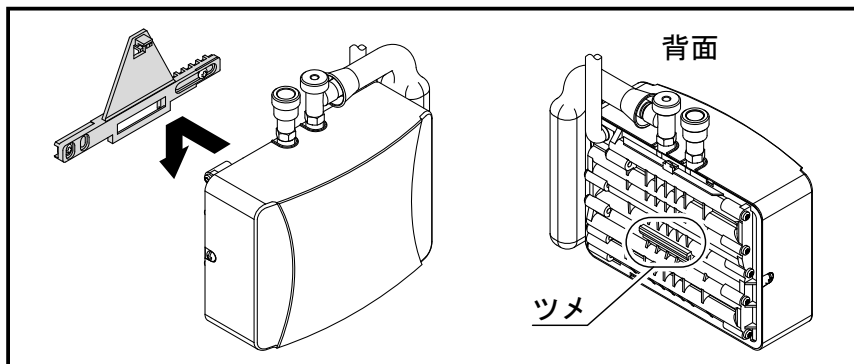
- ②取り付ける壁面にネジ用の印をつけます。(取付可能寸法 100 ～ 150mm：推奨 140mm)



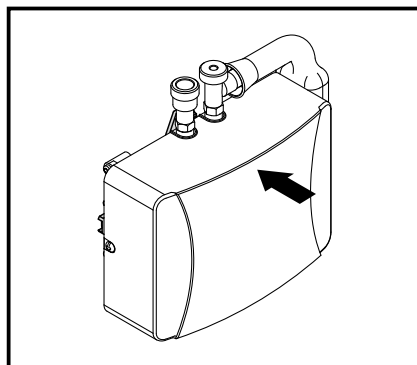
- ③壁面にドリルで穴(推奨φ6mm)を開け、付属のナイロンプラグを打ち込みます。
④付属の木ネジで本体取付具を固定します。



- ⑤ 湯沸器背面のツメを本体取付具に引っ掛け、下方方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

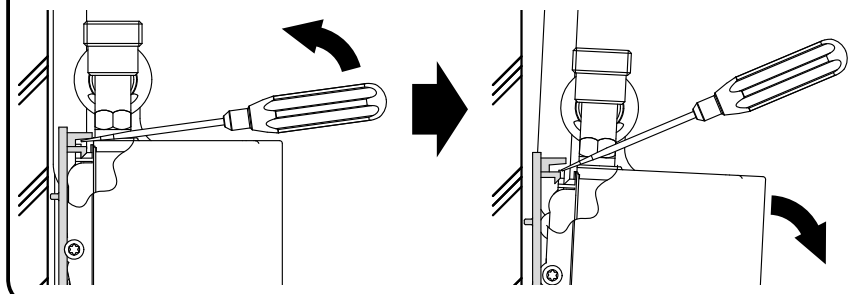


- ⑥ 湯沸器上部を壁側に「パチン」と音がするまで押し込み、本体取付具に固定します。



取り外す場合は、湯沸器本体と本体取付具とのすきまにマイナスドライバーを差し込み、本体を支えながらマイナスドライバーを上を押し上げるようにして取り外します。

(注：上げ過ぎるとツメが折れる可能性があります)



2. 配管工事

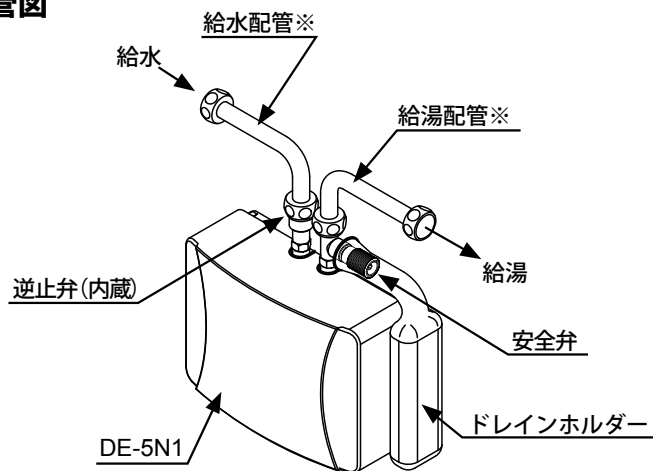
 警告	
	湯沸器本体は必ず給湯、給水接続口を上向きとし、壁面垂直に設置してください。 破裂、落下、故障の原因となります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 破裂してやけどや故障の原因となります。
	給湯配管は鳥居配管しないでください。 破裂、故障の原因となります。

 注意	
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製のものを使用してください。 漏水の原因となります。
	給水接続配管に使用するパッキンはノンアスベストパッキンを使用してください。 漏水の原因となります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因となります。
	給湯配管距離は最長で 6m 以内としてください。（推奨 2m） 破損や故障の原因となります。

配管工事はP.16『標準配管図』を参照し行ってください。

- ① 給水一次側にお客様手配品のストレーナー、止水栓を取り付けてください。
（給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品『一軸減圧弁いちじく（iJG-K）』を必ず取り付けてください。）
- ② 給水および給湯接続口に入っている運搬用キャップを取り外した後、配管と接続してください。

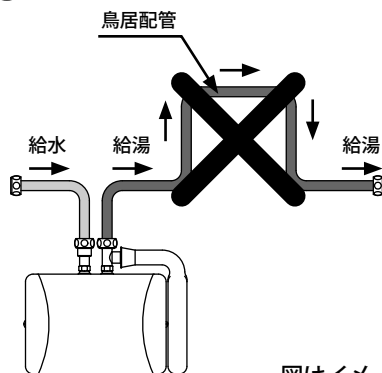
標準配管図



※＝お客様手配品



給湯配管は鳥居配管しないでください。
破裂、故障の原因となります。



図はイメージです

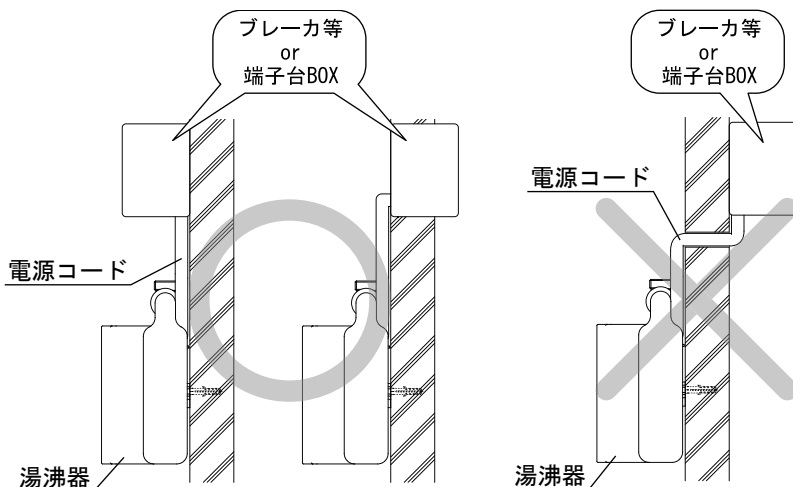
3. 電気工事

⚠ 警告	
	必ずアース（D 種接地）工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。 故障、火災の原因となります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけどやケガの原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。

電源一次側に漏電ブレーカ（お客様手配品）を取り付け、D 種接地工事を行ってください。

注意！

- 機器を永続的に接続する必要があります。壁などに固定した配線遮断機能を有するブレーカもしくは端子台 BOX に接続してください。
- 湯沸器に付いている電源コードを造営物（壁など）内へ引き込んだり、固定しないでください。（DE-5N1 の電源コードは電気設備基準上造営物に固定できません）



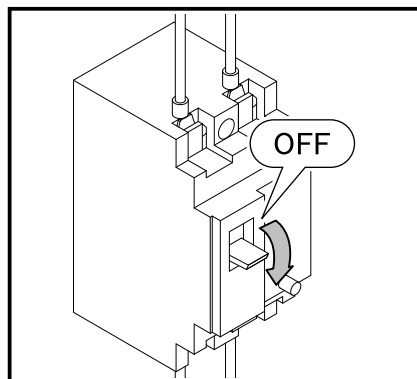
注) 単水栓を使用される場合は、専用の遮断器を取り付けることにより、水のみ利用が可能になります。

4. 試運転

⚠ 警告	
	濡れた手で製品に触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めは瞬間的に熱湯が出る場合がありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

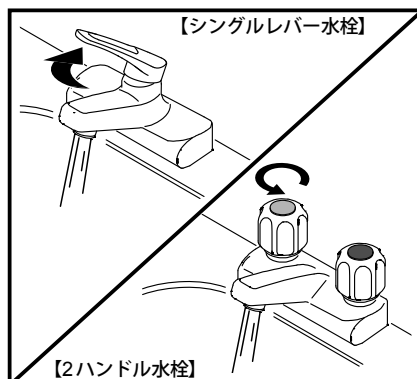
⚠ 注意	
	湯沸器内を満水にしてからご使用ください。 故障の原因となります。

- ①一次側の漏電ブレーカがOFFになっていることを確認してください。



- ②止水栓を全開にしてから水栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。(湯沸器および配管内が満水になるまでは空気を含んだ水が出ます)

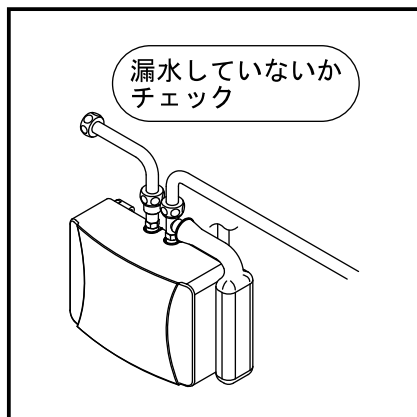
- ③そのまましばらく水を出し続け、配管内の不純物などを流し切ることで、ストレーナーを清掃してください。



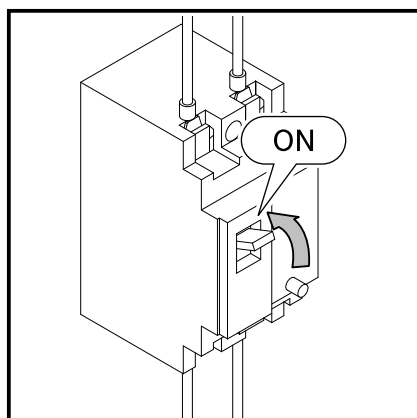
工事要領

施工する

- ④水栓を閉じ、各配管接続部分から漏水がないかチェックしてください。

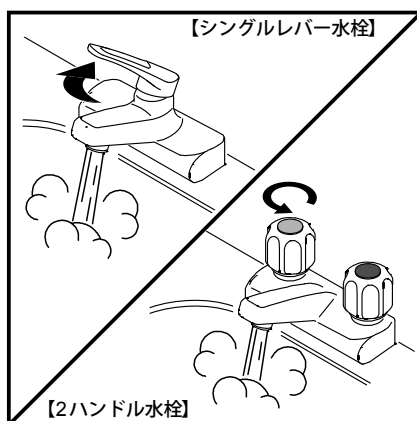


- ⑤一次側の漏電ブレーカをONにしてください。



- ⑥水栓の湯側を開き、1分程流し続けてください。水温が上昇するのを確認できれば正常です。

水栓を開いても流量が少ない場合(毎分1.5ℓ未満)では通電しないため、水温が上昇しません。必ず仕様表(P.7)に記載されている使用流量範囲内でご使用ください。



5. 流量の調節

⚠ 警告



濡れた手で製品に触れないでください。

感電のおそれがあります。

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。

やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

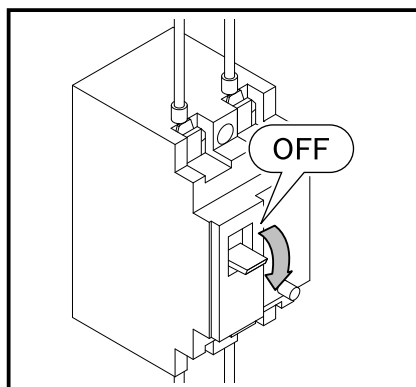


湯沸器内を満水にしてからご使用ください。

故障の原因となります。

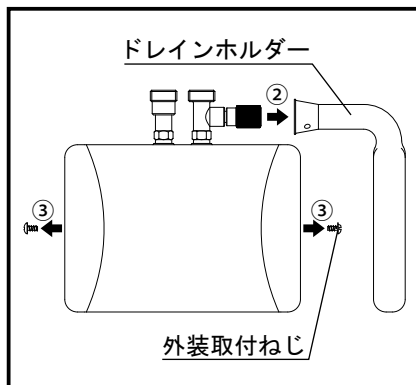
工場出荷時の流量の設定は、給水圧力 0.3MPa 時 2.5L/min となっています。水の出が悪い場合は、以下の手順に沿って流量の調節を行ってください。

- ①一次側の漏電ブレーカがOFFになっていることを確認してください。



- ②ドレインホルダーを取り外します。
(P.13『ワンポイント』参照)

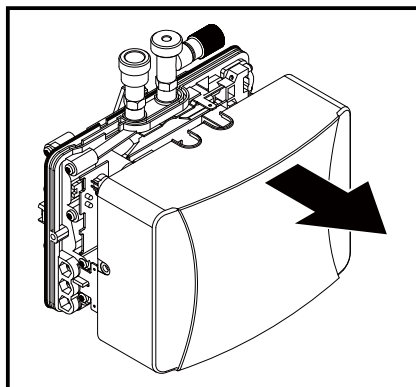
- ③湯沸器外装取付ねじ(2箇所)を取り外します。



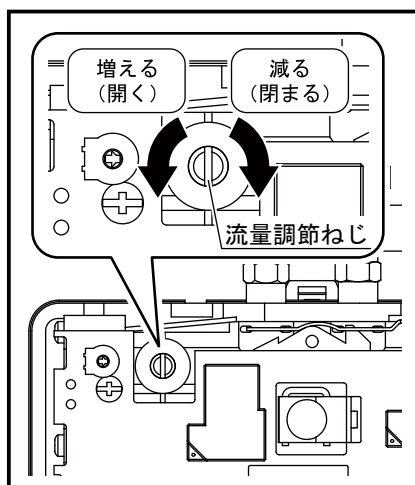
工事要領

施工する

- ④外装カバーを前方向にゆっくりと取り外します。

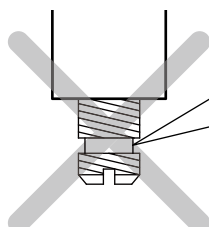
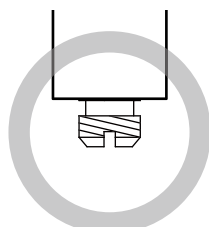


- ⑤水栓の湯側を開きます。
⑥流量を確認しながら流量調節ねじを回し、調節してください。
⑦調節が出来たら、外装カバー、外装取付ねじ(2箇所)、ドレインホルダーを取り外した時と逆の要領で取り付けます。
⑧一次側漏電ブレーカをONにして作業完了です。



注意！

流量調節ねじの回しすぎにご注意ください。
回しすぎると漏水の原因となります。



溝を越えて
回しすぎない

6. 施工後の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
設置工事	垂直な壁面にしっかり固定されていますか？ 固定が不十分な場合、落下や故障の原因となります。	☐
	各配管接続部分から漏水していませんか？ 漏水している場合は、接続部分を締め直してください。	☐
配管工事	給湯配管距離が6m以内で収まっていますか？ (推奨 2m) 給湯場所が湯沸器より離れすぎている場合、お湯の待ち時間が長くなります。	☐
	ストレーナーの中にゴミ詰まりはないですか？ ストレーナー内が詰まっていると、十分に流量が出ない場合があります。	☐
	水栓のお湯側を開くと水温が上昇しますか？ お湯が出ない場合は、試運転をやり直してください。 (P.18『試運転』参照)	☐
	定格電圧(単相 200V) ± 10% 以内ですか？ 電圧が範囲内に収まっていないと、性能を十分に発揮できない場合や、故障・火災の原因にもなります。	☐
電気工事	漏電ブレーカまたは端子台 BOXは見える位置にありますか？ 湯沸器付属の電源コードを造営物(壁など) 内に引き込んで配線することは出来ません。	☐
	付属の電源コードは、漏電ブレーカまたは端子台 BOXに直接結線されていますか？ 湯沸器付属の電源コードを電源プラグで配線することは出来ません。	☐
	給水圧力は0.1MPa ～ 0.4MPaの間になっていますか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品『一軸減圧弁いちじく (iJG-K)』を必ず取り付けてください。	☐
その他	ドレインホルダーに水が溜まっていますか？ 給水圧力が高い可能性があります。給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品『一軸減圧弁いちじく (iJG-K)』を必ず取り付けてください。	☐

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

⚠ 警告

	本製品は 1000 Ω・cm 以上の抵抗率を有する水道水でご使用ください。 感電のおそれがあります。
	湯沸器本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	濡れた手で製品に触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めは瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気が多い場所や浴室には設置、使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠ 注意

	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
	長期間のご使用によって配管内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色、にごり、異臭があった場合は飲用にしないでください。 健康を害するおそれがあります。
	飲用する場合は、必ず一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	床面に防水、排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因となります。
	給水温度は必ず 2 ～ 30℃の範囲でご使用ください。 故障の原因となります。

1. 使用前の準備と確認

ご使用の前に次の事をご確認ください。

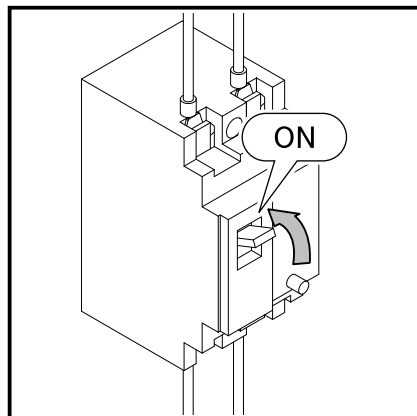
チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
	近くにガス類や引火物がないですか？	☐
本体まわり	本体の上には物などを載せていませんか？	☐
	安全弁が吹き出していませんか？	☐

2. 出湯する

 警告	
	濡れた手で製品に触れないでください。 感電のおそれがあります。
	使い始めは瞬間的に熱湯が出る場合がありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

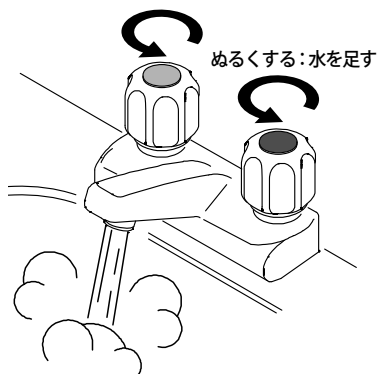
- ①一次側の漏電ブレーカをONにしてください。



②水栓を操作して、給湯してください。

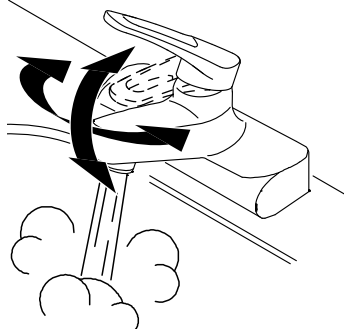
【2ハンドル式でご使用の場合】

出湯する：給湯栓だけを開ける



【シングルレバー式でご使用の場合】

熱くする：レバーを左へ回す
ぬるくする：レバーを右へ回す

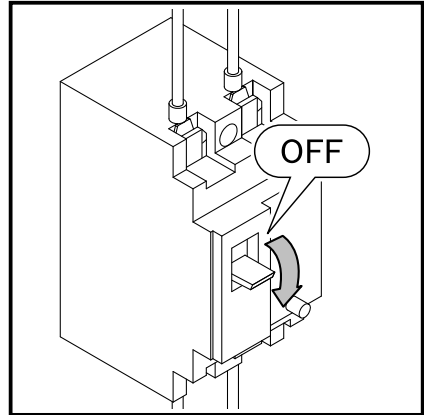


DE-5N1には通水量を検知するフローセンサーが組み込まれており、水栓を開いて流した水量を検知することでヒーターへの通電を開始し、お湯を沸かします。

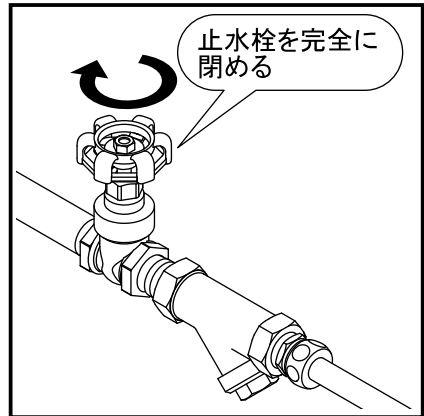
使用中に給水圧力が0.1MPa以下、または出湯量(流量)が1.5L/min未満になるとヒーターへの通電がストップし、お湯になりません。他の給水による水圧変化や水栓の絞りすぎにはご注意ください。

長期間使用しないときは

- ① 長期間使用を休止する場合は、一次側の
漏電ブレーカをOFFにしてください。



- ② 止水栓を閉め、給水を止めてください。



お手入れの方法

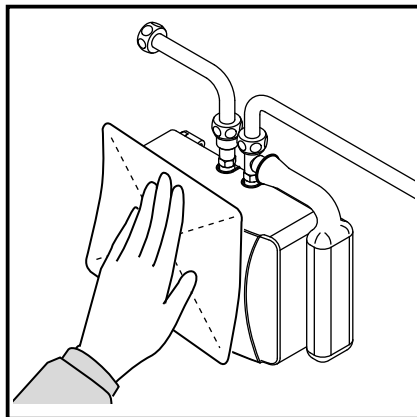
⚠ 警告	
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけどやケガの原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	濡れた手で製品に触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めは瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

保守点検項目と実施の目安

点 検 項 目	点 検 内 容	点検の目安
管理技術者の方のみ 電圧の測定	定格電圧の± 10%の範囲で使用されていることを確認してください。過電圧はヒーター断線の原因になります。また、低電圧の場合は能力が低下します。	1回／月
管理技術者の方のみ 電流値の測定	定格電流の± 10%の範囲で使用されていることを確認してください。使用開始時と再使用時には特にご注意ください。	
重 要 安全弁の確認	ドレインホルダーに水が溜まっていないか確認してください。	
漏水全般についての点検	湯沸器本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日

外装の清掃

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

湯沸器が正しく運転しない場合や不調な際の修理で依頼の前にご確認ください。

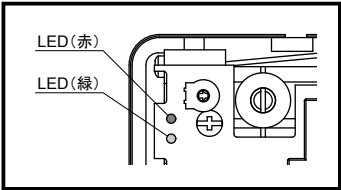
状況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない または 出が悪い	断水ではありませんか？	水道局へお問い合わせください。断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了した後、お湯が濁っているような場合には濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓が閉まっていますか？	閉まっていたら開けてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行ってください。(清掃に関しては管理技術者の方へお問い合わせください。)
	給水圧力が低すぎますか？	湯沸器が適切に運転するためには、給水圧力が0.1MPa以上が必要です。給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。
	配管は正しく行われていますか？	給水圧力が適切でも配管方法によって出が悪くなる場合があります。配管が正しく行われているか管理技術者の方へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	配管内が凍結すると湯沸器が作動しません。凍結防止処置については管理技術者の方へご相談ください。
お湯が出ない (水のままだ)	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
	一次側ブレーカがOFFになっていませんか？	原因を取り除いた上でブレーカをONにしてください。漏電や電気容量オーバーの可能性がある場合は使用せずに管理技術者の方へご相談ください。
	電源が入った直後ではありませんか？	電源が入った直後は、すぐお湯になりません。P.18『試運転』を参照し、試運転を行ってください。
	給水圧力が低すぎますか？	湯沸器が適切に運転するためには、給水圧力が0.1MPa以上が必要です。給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。
	出湯量(通水量)が少なくありませんか？	湯沸器が適切に運転するための最低出湯量(通水量)は1.5L/min以上です。これ未満の場合、運転が行われません。管理技術者の方へご相談いただき、水栓、止水栓、湯沸器本体の流量調節ねじを調整してください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行ってください。(清掃に関しては管理技術者の方へご相談ください。)

状況	ご確認ください	対処方法
お湯がぬるい	給水温度が低すぎませんか？	機器能力以上の出湯はできません。P.7『仕様』をご確認ください。
	出湯量(通水量)が多すぎませんか？	機器能力以上の出湯はできません。P.7『仕様』をご確認ください。管理技術者の方へご相談いただき、水栓、止水栓、湯沸器本体の流量調節ねじを調整してください。
	水栓が故障していませんか？	故障の場合は水栓メーカーの販売店へご相談ください。
濁ったお湯が出る	断水や水道工事の直後ではありませんか？	濁りがなくなるまで出し続けてください。
	配管が腐食していませんか？	配管のサビ等による赤水が続く場合は管理技術者の方へご相談ください。
漏水している	湯沸器本体からの漏水ですか？	止水栓を閉め、一次側の漏電ブレーカをOFFにしてください。裏表紙に記載の弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。
	配管接続部からの漏水ですか？	配管接続部を締め直してください。
水が溜まっている ドレインホルダーに	給水圧力が高くありませんか？	給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品『一軸減圧弁いちじく(iJG-K)』を必ず取り付けてください。

これらの対処を行っても改善されない場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご相談ください。

LEDの点灯・点滅パターンについて

湯沸器内部のLEDは以下の条件で点灯・点滅します。



	LED 状態	点滅パターン	機器状態
LED (緑)	点灯	————	電源 ON 状態で流量が1.5L/min 以上
	点滅	・ ・ ・ ・ ・	電源 ON 状態で流量が1.5L/min 以下
LED (赤)	点灯	————	能力不足 (出湯温度 38℃ 以下)
	点滅	— ・ ・ ・ —	給水温度異常 (給水温度が高い)
	点滅	— ・ ・ ・ ・	温度センサ異常

リセットの方法

管理技術者の方のみ

⚠ 警告



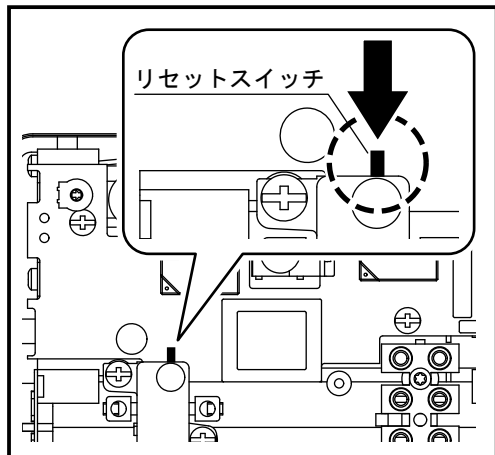
設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。
感電、やけどのおそれがあります。

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

湯沸器水管部内の温度が約 85℃を超えると自動的に過昇温防止スイッチが働き、運転を停止します。

過昇温防止スイッチが作動した場合は、原因を取り除いた上で下記の手順に従ってリセット操作を行ってください。

- ①一次側漏電ブレーカをOFFにします。
- ②外装カバーを取り外します。
(P.20『流量の調節』参照)
- ③右図矢印部分のリセットスイッチを「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- ④外装カバーを取り付けます。
- ⑤ P.18『試運転』を参照し、試運転を行ってください。



過昇温防止スイッチはフローセンサーのゴミ詰まりや給湯配管が長すぎる場合にも作動しやすくなります。
上記のリセット操作は、必ず原因を取り除いてから行ってください。
ご不明な場合は裏表紙に記載の弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までお問い合わせください。

アフターサービス

消耗品の定期交換について

下記に記載の部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため定期的に交換してください。(下表参照) 交換(有償)・購入のご依頼は裏表紙に記載の弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼ください。

部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
安全弁	設置、交換日より 2～5年	長期間で使用いただくことにより、経年劣化やスケール [*] による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。 (※水道水中のミネラル分が固着したもの。)
逆止弁		

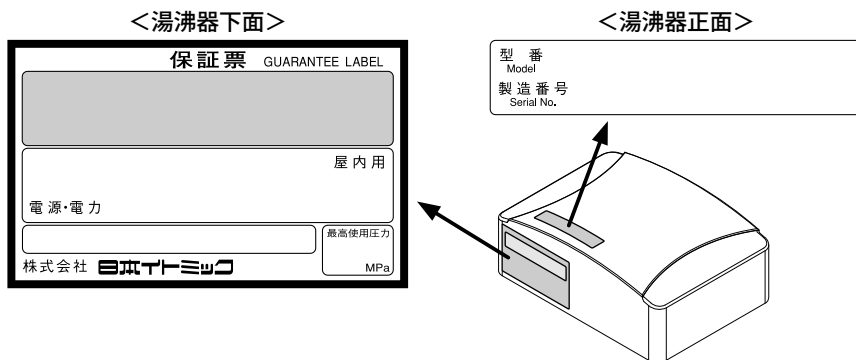
※ 上記以外にもパッキン類や電気部品交換が必要になる場合があります。使用頻度、環境によっては交換時期が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼される時は、P.36の故障状況シートをコピーして必要事項にご記入いただき、FAXにてご送付ください。FAXをお使いになられていない場合は記入事項をお電話にてご連絡ください。
型番等は本体に貼られている保証票に印刷されておりますので、故障状況シートへ転記してください。



(株)日本イトミック フロント課 FAX 03-3621-2163 (TEL 03-3621-2161)

※または最寄りの営業所もしくは地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート	
貴 社 名	
ご担当者名	
ご 住 所	
T E L	
F A X	
製 品 型 番	DE-5N1
電 源 ・ 電 力	単相 200V 5kW
製 造 番 号	
設 置 場 所	
保 証 期 限	
状 態	

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から1年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前に弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - （1）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・湯槽内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
 - （2）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - （3）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - （4）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - （5）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - （6）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - （7）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - （8）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - （9）電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合

- (12) 火災・爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙・降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
- (13) 保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様ご自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認くださいとともに、不明点は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認くださいとともに、不明点は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧ください。か、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本イトミック

本社・営業本部 …… TEL: 03 (3621) 2121 (代)
FAX: 03 (3621) 2130
〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 (イトミックビル)
ホームページ <http://www.itomic.co.jp/>

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はフロント課で承っています。

リニューアル課 …… TEL: 03 (5860) 4992 (代)
FAX: 03 (3621) 2163

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。



一般電話・公家電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。

※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。

その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。
※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合には関東地区のお客様はフロント課、中部・近畿地区のお客様は西日本修理受付センター、その他の地域のお客様は最寄りの営業所もしくは地区販売会社まで直接お電話ください。

フロント課 …… TEL: 03 (3621) 2161 (代)
FAX: 03 (3621) 2163

西日本修理

受付センター …… TEL: 052 (228) 0824

《担当エリアと営業所・地区販売会社》

北海道地区 …… TEL: 011 (615) 6681 (代)
(株) 北海道イトミック
〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10 (ラポール 24 軒 2 号館)
担当エリア: 北海道地区全域
FAX: 011 (615) 7004

東北・新潟地区 …… TEL: 022 (773) 6161 (代)
(株) 東北イトミック
〒981-3125 宮城県仙台市泉区みずほ台 4-3
担当エリア: 青森県/岩手県/秋田県/山形県/宮城県/福島県/新潟県
FAX: 022 (773) 6213

関東地区 …… TEL: 03 (3621) 2121 (代)
(株) 日本イトミック
〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 (イトミックビル)
担当エリア: 東京都/千葉県/埼玉県/茨城県/栃木県/群馬県/山梨県/神奈川県/静岡県
FAX: 03 (3621) 2130

中部・北陸地区 …… TEL: 052 (222) 2561 (代)
(株) 日本イトミック 中部営業所
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12 (アレックスビル 3F)
担当エリア: 富山県/石川県/福井県/岐阜県/愛知県/三重県/長野県
FAX: 052 (222) 2559

近畿地区 …… TEL: 06 (6226) 0800 (代)
(株) 日本イトミック 関西営業所
〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町 3-4-7 (KC ビル 9F)
担当エリア: 大阪府/京都府/滋賀県/和歌山県/奈良県/兵庫県
FAX: 06 (6226) 0802

中国・四国地区 …… TEL: 082 (240) 1361 (代)
(株) 日本イトミック 中国営業所
〒730-0051 広島県広島市中区大手町 1-7-12 (徳永ビル)
担当エリア: 鳥取県/島根県/岡山県/広島県/山口県/香川県/徳島県/愛媛県/高知県
FAX: 082 (240) 1363

九州・沖縄地区 …… TEL: 092 (481) 3911 (代)
(株) 九州イトミック
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア: 福岡県/佐賀県/長崎県/大分県/熊本県/宮崎県/鹿児島県/沖縄県
FAX: 092 (481) 3930

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



この印刷物は、再生紙と植物油インクを使用しています。

'13.04-7-1-0.5 ①